

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたかく

令和8年6月30日 第4号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

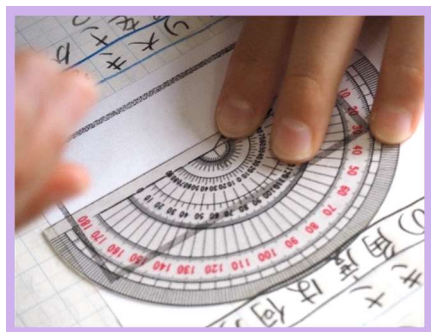
さいたま市西区西大宮 1 丁目 4 9 - 6

電話 048-623-0133 FAX 048-624-2200

<https://sashiogi-e.saitama-city.ed.jp>

変な数字

校長 小松 伸弘



先日は個人面談への御協力ありがとうございました。短い時間でしたが、お子さんの御家庭での様子についてお話を伺うことができ、有意義な時間となりました。

さて、先日4年生の授業を参観したら、角度の学習をしていました。子どもたちは苦戦しつつ当たり前のように分度器を使っていますが、ふと考えると不思議なことがあります。

なぜ、一周は100度ではなく360度なのでしょう。

その理由をたどっていくと、話は夜空へと向かいます。

昔の人々にとって、星を見ることは農作業の種まきや収穫の時期を知るための大切な「時計」であり「カレンダー」でした。星座の動きは中学で学びますが、同時刻に空を見ると、星は毎日約1度ずつずれていき、その積み重ねによって、季節によって見える星空が変わっていきます。昔の人々は、このような星の動きを手がかりに季節を知りました。

こうした天体観測や暦づくりの背景に、古代メソポタミアで発展した60進法の考え方がありました。60を基にするこの数え方は、時間や角度の世界に今も残っています。そして天体の運行を観察する中で、一周をおよそ360に分ける考え方が生まれ、円の360度という数え方につながっていったと考えられています。

しかも、60という数字は様々な数で割り切れるため、便利なのです。この60で区切る数え方は、今も私たちの生活に残っています（1時間=60分、1分=60秒）。余談ですがフランス革命の時に「10進法に統一しよう」という試みがあったそうです。1日=10時間、1時間=100分としたのですが、わずか数年で使われなくなったのだとか。数字は合理性だけで測れるものではなく、人間の生活サイクルと結びついているということなのでしょう。

ところで、100メートル走の世界記録は9.58秒ですが、この数字、実はとても変な数字です。というのも、小数点の左と右で数え方の法則が違います。整数部分は1分=60秒という古代の60進法、小数部分は0.58という現代の10進法です。私たちは無意識に古代と現代が混ざり合う世界で暮らしているのです。算数や数学というと、「決まりを覚える教科」のように思われがちですが、その背景には大昔の人々の生活の知恵が隠れていることがあります。

もうすぐ七夕です。都市部では天の川も見えづらくなってきましたが、織姫と彦星を探しながら夜空を見上げる子もいるでしょう。私たちが当たり前に使っている数字も、かつて同じ空を見上げた人々の営みから生まれてきたと思うと、感慨もひとしおです。

「変な数字だな。」そんな小さな違和感から、世界は少しだけ面白くなるかもしれません。